

本年も2月になってしまったが、昨シーズンの貴重な出来事をまとめてみた。

ある元農業関係者から、「ミヤイさんスズヒメ作りませんか？」とお誘いの電話があった。その瞬間、キターー！ また出てきたか、先祖返りのゾンビ野郎！と旧正月を祝う中国の爆竹並みにパンパンと破裂しながら心の中で叫んでいる自分がいた。

このスズヒメと呼ばれる極小サイズのレトロ大豆は近年栽培が減り、十勝地方でもたぶん数十haあるかないかの面積になっていると聞く。納豆の適性や耐センチュウ性は抜群らしいが、いかにせん早生過ぎて栽培地域が限られるのと、収量が低く収益性が悪いので、多くの生産者は食指を動かさずとしないのが現状のようだ。よって、十勝より積算温度が高い長沼でこのスズヒメを栽培したら、熟期がもっと早まり、収量、収益はより悪くなることは分かり切っている。たぶん私が納豆用の大豆を栽培しているのでお声が掛ったのだろうと推測した。まったくお話にならないので申し出をお断りすることになったのだが、念のためにしっかりとダメな理由を説明して、不必要な情報をスマホで拡散させ、犠牲者を出さないためにも「間違っ

も都府県にこの話を持っていったはいけません」と強めの口調で伝えたが、案の定やりやがった。よりにもよって埼玉のラジコンヘリとナニをイジラせたら右に出る者がいないチヨ・フィンガーテックの持ち主である小林秀康さんのところに話を持っていったのです。さすがの彼も何か疑問を感じたのか、私に相談をしにきたので、一応、農業とナニに思慮深い彼に栽培してはいけない説明をすることになった。ではなぜ、先祖返りのゾンビ野郎 などバイオハザードの新作の宣伝をする様な思いになったのかを説明いたします。

アグリ・アグリ・アグリ

平成の世になったところに、やはり今回と同じように「オオヤチを作りませんか？」と誘いの電話があった。オオヤチってなんだ？ と考えていたら、大脳の細胞にあるメモリーに大谷地の名前が浮かんできました。電話の相手に「確か、とても古い品種ですよ」と答えると相手は「あ

北海道で7俵の収量を叩きあげた大豆種子とは？

Vol.58



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

の古い品種のコクと香りがたまらないと言う消費者がいるんです」と答えた。この大谷地大豆は昭和初期に栽培が始まり、昭和30年くらいまで栽培されていたようです。私は「このような古い品種は作りづらいし、収量が明らかに低く、収益が悪いのでダメですよ」と話した。すると相手は「これだから最近の農家はだめなんだ、消費者は古い品種を望んでいるんだよ。だか

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

ら米国の大豆に負けるんだ」と私を完璧に批評し、論じ始めたのです。

冒頭の元農業関係者の名譽の為に、言わなくてはならないことがあります。こちらの方はある企業にお勤めで、新規事業の関係で農業と携わることになり積極的に生産者と流通・加工にアドバイスをされることになりました。今までお会いした関係者の中で、一番、真面目に農業の関連事業に携わっており、尊敬の言葉以外見当たらない方です。ですが、基本的に農業そのものを経験していないので、栽培、育種、種子とその特性に関しては正直言つてウトイことは仕方がないでしょう。ただ、2人目の大谷地・大豆を作らないかと言つてきた**昭和のゾンビ野郎**はチョー大馬鹿である。知らない方が黙つて聞けば古くても良い物は良いじゃないか?と思われるかもしれないが、今の北海道において古い品種の大豆や小麦を栽培した場合、間違いなく交付金に影響を及ぼすことになるし、自分の経験上、古い品種が新しい品種よりも総合的に考えて良いなどと思つたことは一度もない。**古くて良いのは女房くらいなもんだ!**(あ〜言つてしまつた)

聞くところによると、首都圏近郊で江戸時代のレトロ品種を栽培して

いる生産者もいるようだ。彼ら、彼女たちが行なっている農業は間違いなのか?とさえそうでもない。首都圏のレトロを懐かしむ趣味がヘンテコリンなマーケットを押さえているのだから、商売としてそれはそれで良いのだから、次の世代に同じことが続いているかどうかは、私の知つたことではない。

多くの真面目な生産者はこのような、マーケットに限界があるレトロ品種には、限られた未来しかない事は知つているが、あえて口を閉ざしている。おとなしい生産者を逆にとり、古い品種は新しいものよりも優れている!と消費者を勘違いさせる手法を使い、何の保証もないのに勝手にレトロを強調して消費者心理を欺くエセ農業関係者はアグリ・アグリ・アグリ(醜い農業を認める)野郎と表現したい。また、そのような奴に限つて「ウインドーズの新OSにしよう♡」などと心と発言のバランスが崩れた表現をする様だ。だつて、普通よほどの理由がない限りOSはSP1の様に改良された物を使うのが、同じ料金を払う者として当然の選択になるはずだ。

米国原産でも100%国産

批判ばかりだと、つまらない人生を送るので、話を大豆に戻そう。

1961年の大豆輸入自由化後、食用、油脂用に係らず米国大豆の供給量、品質としての安定性は揺るぎない地位を世界に示していることは間違いなし、ましてや大豆を2000万t、米国から輸入する中国にその地位がとつて代わることはありえないだろう。だとすると、日本の大豆生産性の低さと品質の不安定さは、古き良き時代の昭和初期の大豆を現在において栽培しなかつたのが主たる原因なのか、と言えは決してそうではなく、やはりペリー艦艇が日本(中国)にやつてきて大豆を持ち帰り、主たる大豆の育種が民間によつて行なわれ、日本では、やつと21世紀になつて民間育種が自由化されたのが主たる原因だろう。そしてこの100年の国内生産者の大豆栽培意欲と、消費者の嗜好ギャップを埋めるのは不可能なことである。

私は日本国平均で3俵、**北海道で4俵**の国内の大豆育種を止めろ!とまでは言えないが、米国の平均で4.5俵、**アイオワ当たりの産地では平均で5.5俵**の収量がある米国大豆の日本国内栽培をそろそろ進めても良いのではないかと考える。そのような思いの中、やはりやる人は**やつちやつたよ**うだ。昨年地元JJAからは軽いイジ

メに遭いながら、成果を上げた生産者もいた。北海道の丘が綺麗な町で米国原産の種子を使い、**最高7俵**の収量を叩きあげた。**種子がどの国のものであれ、国内生産であれば100%国産**である。同じように多くの野菜の種子が海外から持ち込まれ、JAS法の有機で作られれば、らでいっしゅぼーやの様に正々堂々と国内産有機栽培野菜と宣言できるのと同じである。

それにしても種子の世界は不可思議なことばかりです。私が栽培している納豆用大豆、ユキシズカも中国の血が60%くらい入っています。北海道で栽培されれば100%国産です。パン用で人気の北海道産の春よ恋という春小麦は金髪・ブルーアイの大産地ミネソタ州とのハーフ、でもやはり北海道で栽培したら100%国産で、パン用小麦加算金と交付金をしっかりといただけます。

まっ、本来であれば血統主義の日本が鳥に関しても、中国からの100%移民鳥であるトキを持つてきて日本の準国鳥だ!と宣言するくらいなのだから、移民政策で、もしかして誉れ高き大和民族の血統主義を止めて、生まれた国の国籍にする出生地主義を種子に取り入れる日本は、本音と建前を両立できる和をもつた素晴らしい国なのだろう。